

特別支援教室

特別支援教室は、知的な遅れはないものの、集団での学習活動で困りごとを抱えている子どもたちのための通級学級です。自閉症(ASD)、情緒障害、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)があり、在籍学級での学習におおむね参加できるものの、通常の学級での指導・支援に加え、一部特別な指導を必要とする子どもが対象です。

学校生活でこのようなことはありませんか

気持ちの切り替えが難しい

- 場の空気を読み、状況を判断して動くことが苦手である。
- 好きなことに集中しすぎて、それ以外がおろそかになる。
- 急な予定の変更などにパニックを起こすことがある。



運動や体の動きを器用にできない

- 体育が全般的に苦手で、やる気がないように見える。
- ドッジボールや大なわなどの集団遊びの輪の中に入れない。
- 楽器や道具の扱いが上手くできない。
- 手先を使った細かな作業が苦手である。
- ルールの理解が難しい。



不注意で気が散りやすい

- 整理整頓が苦手な、忘れ物が多い。
- 授業やテストなどに集中できず、うっかりミスが多い。
- 音や光、皮膚感覚に過敏に反応して集中できない。



コミュニケーションがうまく図れない

- 思ったことをそのまま口にしてしまったり、自分をうまく表現できなかつたりして、友だち関係がぎくしゃくする。
- 興味や関心があることを一方的に話すことがある。
- 人の気持ちを察することが苦手で、相手の反応を気にしない。



衝動的に動いてしまう

- 周囲の刺激に反応して、すぐに動いてしまう。
- 順番を待たずに割り込んでしまう。
- 手を出したり、大きな声で騒いだりしてしまう。



勉強に得意不得意があり、力を発揮しにくい

- 授業には参加できても、音読、読解、聞き取り、作文、書字、計算、推論するなど特定の分野が極端に苦手である。
- ノートをとることが難しく、授業に集中できない、課題を提出できないことがある。



話すのは得意だけど



読むのは苦手

子どもの意欲を育てることを重視しています。自分から進んで話したり、のびのびと活動できるようになったりすることで、安定した学習の基盤が作られます。

マジックミラーを通して参観可能な教室。(高井戸第四小学校)



静かで落ち着いた環境で学習する教室。(高井戸小学校)



体の動かし方を学んだり、友達と遊んだりするプレイルーム。(杉並第十小学校)



通級による指導のしくみ

通級による指導

在籍している学校で学習しながら、週1回程度決められた区域の通級指導学級に通います。授業時間は45～90分です。

基本は個別指導

1対1の個別指導を基本にしています。一人ひとりの課題に合った学び方に配慮して、課題改善のための指導を行います。

保護者の付き添いや見学

原則として、保護者の送り迎えをお願いしています。個別指導の様子は、保護者も見学することができます。

個別の課題に合わせた指導内容

一人ひとりの課題に合わせた「個別指導計画」を作成して、指導内容を組み立てます。年齢や課題に応じた指導内容になっています。

入級の時期

- ・毎年度4月、9月、1月となります。
- ・事前に入級に関する判定委員会があります。詳しくはP7をご覧ください。

「学習生活支援シート」を活用したつながりのある支援

本人や保護者のニーズを踏まえた「個別の教育支援計画」(学校生活支援シート)を作成します。これは関係機関が連携してお子さんを支援していくための中・長期的な計画です。お子さんの状態などに関わる情報を関係者間で共有し、教育的支援の目標や内容について明確にし、指導を行います。

■学校生活支援シート

記入項目

- ・学校生活への期待や成長への願い
- ・現在のお子さんの様子
- ・支援の目標
- ・支援機関の支援
- ・支援会議の記録 等

| 学校生活支援シート (個別の教育支援計画) | | 児童の氏名 | |
|--|--------|-------|------|
| 姓 | 名 | 姓 | 名 |
| 生年月日 | 学年 | 学年 | 学年 |
| 性別 | 保護者の氏名 | 住所 | 郵便番号 |
| 電話番号 | 連絡先 | 連絡先 | 連絡先 |
| 担当教員 | 校長 | 校長 | 校長 |
| 担任 | 担任 | 担任 | 担任 |
| 1. 学校生活への期待や成長への願い(本人や保護者の希望、希望する学習内容) | | | |
| 2. 現在のお子さんの様子(学習状況、生活状況、健康状況、その他) | | | |
| 3. 支援の目標 | | | |
| 4. 支援機関の支援 | | | |
| 5. 支援会議の記録 | | | |
| 学校の名称・室名 | | 実施の年度 | |

みんなで子どもを支援します

在籍学級との連携

子どもの様子を伝える連絡帳(ファイル)は、保護者と在籍学校の担任の三者で共有します。また、「きこえの教室」と「ことばの教室」の担任が子どもが在籍している学校での様子を参観することもあります。他にも、特別支援教育コーディネーターや、スクールカウンセラーとも連絡を取り合います。

保護者との連携

保護者会を1年に2～3回程度行い、教員と保護者だけでなく、保護者同士の交流の機会も設けています。

専門家との連携

ことばやきこえに関する専門家の先生方や、関係する様々な機関とも連携しています。

発達段階に応じた指導をします

小学校では

小学校の「きこえの教室」「ことばの教室」では、個別指導で学習面をサポートするだけでなく、プレイルームで体を動かしたり、料理や工作などの体験を通じた学習から、生きたことばを学ぶことができます。それがことばの発達や、コミュニケーションの向上に結びついていきます。

中学校では

国・英・数の教材を活用した個別指導や校内生活全般を通じて、目や耳からの情報を得るための必要な支援を受けます。他にも、授業内容を補う個別指導や聴覚障害の自己理解、他者理解、合理的配慮についての学習をします。

※小学校・中学校の通級の区域については裏表紙に記載しています。